

令和5年度（2023年度）授業研究セミナー（農業）

実施報告

北海道教育委員会

令和6年3月15日（金）、北海道岩見沢農業高等学校を会場に、「農業科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～農業の見方・考え方を働かせた授業の充実を目指して～」をテーマとして、原則履修科目である「農業と環境」における「農業生産の基礎」を単元とした授業研究セミナーを開催し、全道からオンラインを含め39名の参加がありました。



当日のセミナーまでに行った指導案検討会や研究授業の内容、研究協議の様子を紹介いたしますので、授業改善の参考として御活用ください。

実施状況

【学習指導案検討会】

- 授業研究チーム…高校教諭4名、指導主事1名、大学准教授1名の6名で編成
- 学習指導案の検討…授業研究チームがオンラインで2回実施

<1回目の検討会の主な内容>

授業づくりの前提となる内容を授業研究チームで共有

- ・「教材観」…これまでどのような学習（実習）に取り組んできたか
- ・「生徒観」…農家子弟の生徒の割合や進路希望、生徒の雰囲気はどのようなクラスか

<2回目の検討会の主な内容>

本時の目標とその実現に向けた過程を検討

- ・本時の目標を設定（生徒が身に付けるべき資質・能力は何か）
- ・グループワークまでの流れや想定される協議内容（どのような声かけが必要か）

【研究授業】北海道岩見沢農業高等学校 石田 康幸 教諭

- 科目「農業と環境」 単元「農業生産の基礎」（12時間目／13時間）
- 本時の目標「農業経営に当たり、作型の決定には、多様な要素があることについて理解し、科学的な根拠に基づいて、作型を選択することができる。（思考・判断・表現）」
- 授業展開
 - ①カボチャとハウレンソウの出荷量と価格のグラフについて考察（個人）
 - ②作型の決定には、どのような要素が考えられるか、どのような作型を選択し、どのような作型とするか協議（水稻畑作、畑作園芸、非農家など、グループごと）
 - ③グループワーク後、全体で発表（全5班から発表）
 - ④まとめ（どのような気づきがあったか、授業前後で考えに変化があったか）



石田教諭による説明



グループワークの様子



全体での発表の様子

学習指導案



スライド資料・ワークシート



【研究協議】農業科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

研究授業後、授業を参観した先生方による個人での授業の振り返り、授業者の石田先生による振り返りを行った後、グループに分かれ、先生の指導に着目する「How to teach」ではなく、生徒の思考の変容に着目する「How to learn」の視点を重視して、次の柱で協議を行いました。

柱① 本日の目標(ねらい)は達成できたか。

題材や問い、発問は適切であったか。

- ・グループワークの前にグラフの考察を行ったことで、協議で他の視点がないかを生徒が十分に考えることができていなかった。
- ・カボチャとホウレンソウの2品目に作目を絞ったことで、生徒が考察する際のポイントが明確になっていた。



協議の様子

柱② 主体的・対話的で深い学びにつながる授業であったか。

また、農業の見方・考え方を働かせた授業となっていたか。

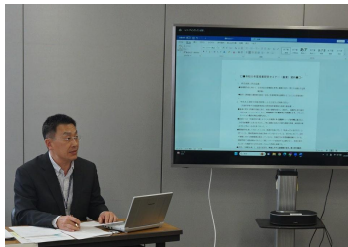
- ・グループ協議により、どのような経営を行うかについて、生徒が自分事として考えていた。
- ・作型の決定に当たり、他の視点を考える時間が設けられておらず、単価で決める班が多くなってしまった。
- ・まとめで説明した内容を理解した上で協議を行うことで、より深い学びにつながったと感じる。



発表の様子

【助言】酪農学園大学 飛谷 淳一 准教授

本時の学習内容は、この1年間、座学と実習を通して学んできた栽培技術を踏まえ、農業経営を考えるに当たり大変重要であることや、協議に当たっては、生徒の実態を踏まえた上で、どのような情報を与えると協議が活性化するかを見極めることが大切であること、グラフの読み取りは、大学に進学後も大変役立つこと、作目の選択には、その地域の



課題の背景や、消費者のニーズなどを的確に把握する必要があることなど、多くの点について、御示唆いただきました。

さらに、本時の内容は、1時間の展開ではなく、2時間確保することで、より対話的で深い学びにつながったのではないかと、もう少し情報を与えてから協議した方が深い学びにつながったのではないかなど、今後の授業改善の方向性について助言をいただきました。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 生徒たちが考える意見に対して、どのような声かけをすれば、より生徒の考えを深めることができるのかを学ぶことができた。
- グループワークの重要性と、事前準備の必要性を感じることができた。
- 課題設定の方法や振り返り方、ここに至るまでの授業での関わりなどが参考になった。
- ICTの活用により、教科書には掲載されていない内容まで、生徒が理解できていた。
- どのように授業づくりを行ってきたか、プロセスが見えた研究授業だった。

【アンケートの結果(一部)】

- 1 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について、理解が深まりましたか。
 - ・大いに深まった 57.1%
 - ・深まった 42.9%
- 2 今回のセミナーの学びは、あなたの今後の授業改善に活用できますか。
 - ・大いに活用できる 60.0%
 - ・活用できる 40.0%